

ひだまり

新たな一歩



医療法人社団みつわ会
理事長 尾形直人

ひだまり Vol. 47

医療法人社団みつわ会
山形県鶴岡市茅原町26番23号
〈事務局〉TEL0235 - 25 - 8255

- ・老人保健施設のぞみの園
- ・サテライト老健のぞみ
- ・サテライト老健ちわら
- ・グループホームひだまりの家
- ・のぞみの園訪問介護サービス
- ・茅原クリニック
- ・ケアプランセンターひだまり
- ・有料老人ホームサニーハウス茅原
- ・有料老人ホームみつわ荘
- ・有料老人ホーム共栄荘
- ・有料老人ホームあじさいの家
- ・ライフサポートハウス千寿

発行日 平成25年1月1日
発行人 施設長 佐藤久美

明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、日頃から当法人の運営につきましてご理解、ご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

みつわ会は昨年、お陰様で創立20周年を迎えることができました。老人保健施設のぞみの園を設立、運営するなかで、その時々、地域やご利用者の実情に応じた施設サービスの必要性を実感したことから、診療所・老人ホーム・認知症グループホームの各施設を設置してまいりましたが、最近では全国的に、急増する高齢者の医療・福祉の対策として在宅ケアと看取りの場所の必要性が叫ばれる時代になりました。

みつわ会でも20周年の節目に当たって昨年は、サテライト型老健施設を市内二カ所に設置し、ひとつは老健施設の主機能である入所や通所でのリハビリテーションを頑張っていたいただいて、ご利用者ができるだけ自立しながら在宅生活を送れるよう支援しております。もうひとつは医療依存度の高い方でも医療やリハビリを受けながら生活できる、また状況によっては看取りまで医療的なケアができる施設にいたしました。

職員は皆、高齢者について幅広い知識と高い技術の上に、温かい心を持ってご利用者に接することができるように常に研鑽に励んでいますので、法人各施設を安心してご利用いただけるものと考えております。

これから先も確実に地域の高齢者が増加して行きますが、10年後も20年後もここで暮らす高齢者の幸せのために、みつわ会の役割をしっかりと果たせるように今年を新たな一歩として、法人、職員一丸となって取り組んでまいりますので、皆様には今後とも、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

Merry Christmas

クリスマス会

★のぞみの園 入所 12月21日

クリスマス会を兼ねた望年会が行われ、職員からのプレゼント(小物入れ・ストール・ひざ掛け等)がご利用者に贈られました。また、鶴岡中央高校の生徒さんも来園し、一緒に歌に合わせて体操をし、楽しまれておりました。クリスマス会の間には、職員とご利用者の写真がスライドショーとしてテレビに映し出され、皆さん一年を振り返りながらスライドに目を向けておりました。

おやつ時には、デザートバイキングとして、練りきり・抹茶ムース・ショートケーキ・モンブランから2種類を選び、皆さんおいしそうに食されておりました。笑顔であふれる会になりました。



★のぞみの園 通所 12月24日

カトリア合唱団(鶴岡第一学区 女性部)の皆さんからクリスマスソングを披露していただきました。

プレゼントは、音楽に合わせてのプレゼント贈呈で、ご利用者の皆さんも楽しみながら心のこもったプレゼントを受け取っておりました。

昼食は、オムライスとナポリタンの選択メニューで、職員が一つずつ折り紙で手作りのクリスマスツリーやキャンドルで飾られたテーブルで、クリスマスという特別な日を感じながら、食事を召し上がっていただきました。

おやつ時には、シャンメリーで乾杯した後、ケーキを皆さん食べていただき、おしゃれなクリスマス会となりました。



★ひだまりの家 12月24日

鶴岡第四中学校吹奏楽部の生徒さんにクリスマス聖歌やサザエさんなど全6曲を演奏していただきました。また、職員からはプレゼントの贈呈と、ハンドベル演奏と踊りが披露され、ご利用者の皆さんは、終始笑顔で楽しまれていました。

おやつ時には、職員手作りのケーキに舌鼓をうち、ご利用者と職員共に楽しい時間を過ごすことができました。



★サテライト老健のぞみ 入居・通所 12月23日(入居)・25日(通所)

入居では、和洋中折衷の料理が楽しめる「おばこの里こまぎ」のバイキングメニューを施設内で召し上がっていただき、自分の好きな料理をおいしそうに食べられておりました。

プレゼントは、抽選会を行い皆さんワクワクドキドキしながら抽選を待っている様子でした。そしてケーキは、上林課長による手作りケーキ(シュータワー他)が振舞われ皆さん楽しまれておりました。

通所では、プレゼントの贈呈とおやつバイキング。また、皆でクリスマスソングを歌い楽しみました。



★サテライト老健ちわら 入所・通所 12月24日

入所では、普段寝たきりのご利用者も全員ホールに集まり、職員と一緒にクリスマスソングを歌いました。クリスマスケーキ作りでは、ご利用者からデコレーションしていただき、皆さん思い思いのケーキを作りました。ご自分で作ったケーキは格別だったのではないのでしょうか。クリスマスプレゼントも、職員がご利用者一人ひとりのことを考えながら、ひざ掛けや靴下などをお渡ししました。

通所では、ボランティアのハーモニカと職員によるハンドベルの演奏を聞いていただきました。その他ビンゴ大会では、ご利用者の皆さん一喜一憂し、職員からのプレゼントと心を込めて作ったケーキを食べクリスマス気分浸っていただきました。

★有料老人ホーム 12月23日 (サニーハウス・みつわ荘・共栄荘・あじさいの家・千寿)

各ホーム、プレゼントの贈呈やケーキバイキングを実施しました。また、職員の踊りも披露され、皆さん迫力ある踊りにとても楽しまれておりました。夕食は、手作りのカレーライスとカレーうどんの選択メニューで皆さんおいしいと喜ばれておりました。



(田中・西脇)

大規模災害初動対応訓練 「もしも…」に備えて



2011年3月11日におこった三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震（東北地方太平洋沖地震）とそれに伴う津波の記憶を風化させず、危機的大規模災害がおこるとも限らないとの厳しい考えのもと、昨年度に引き続き第2回目の初動対応訓練を11月29日に行った。

訓練は、庄内沖の日本海を震源とする震度6の地震が発生、施設内の停電、ご利用者に複数怪我人が発生したと想定された。

参加者は前回と同様、4つの班（情報収集・通報連絡班、救護・救助班、ライフライン・施設復旧班、給水・給食・物資調達班）に分けられ、各々が役割や目的を持ちながら実施された。訓練前に行った打ち合わせを確認しながら、各班職員間での相互理解を図った。新しい施設も増えた為、その場所ごとに訓練の内容が違い、情報の収集方法等をどのように対策本部に伝達するか思案のしどころでもあったようだ。

記者は実際にライフライン施設復旧班に在籍して施設の状況確認や発電機を所定の場所に設置して、各所の電源の確保に奔走した。発電機は過般式とはいえ、約90キロの重量。それを所定の時間の中、汗だくで設置対応した。又、施設内の状況確認を1Fから3Fまで階段を使って行った。当然、エレベータは使用不可との想定の為、駆け足での確認で息も切れ、体力勝負の訓練となった。

訓練で学ぶこともさることながら、ライフラインが停止する中では、日頃の体力作りも重要と改めて考えさせられた。（丸屋）



第23回 全国介護老人保健施設大会 美ら沖縄

「第23回全国介護老人保健施設大会 美ら沖縄」が平成24年10月3日から5日までの3日間、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターなど4会場で、「命どう宝-老健が担う地域包括ケア-」をテーマに開催されました。

全国から4,100人の方が参加し、1,100題を超える演題発表が行われる中、当法人からは5人の職員が参加し、演題「サテライト型老健開設に取り組んで」（発表：業務部長 粕谷修次）を発表しました。会場からはサテライト老健単体での経営についてはどうなのかなど、全国でもまだ少ないサテライト型小規模介護老人保健施設への関心の高さが感じられました。

他施設の素晴らしい取り組みを学び、また、沖縄の文化や風土に触れることもでき、実りある大会参加となりました。また来年も質の高い演題発表を行えるよう職員全員で頑張っていきたいと思ひます。

（佐藤・三浦）



抄録発表をする 粕谷修次 業務部長

相互の研修会参加を通して 技術や知識の共有を

鶴岡市介護保険事業者連絡協議会「介護老人保健施設部会」の今年度の取り組みは、各施設の内部研修会への他施設職員の相互参加が実施されています。

みつわ会の法人全体で11月28日に開催された「高齢者入所施設における感染予防対策」の内部研修会には、「宮原病院」の職員が参加しました。内容は、感染予防対策の講義の他に、実技として手洗いチェッカーを使用した手洗い方法の確認や嘔吐物の処理・おむつ交換の方法について研修しました。

また、「かけはし」で開催された「症例発表会」(11月29日)には、のぞみの園職員5名が参加し、他施設での取り組みや仕事面での工夫を知ることができ大変勉強になりました。

今後も内部・外部の研修会への参加を通して、介護技術や知識等を習得し、日々の仕事に活かしていきたいと思えます。(本間)



当法人内部研修会
「宮原病院」から2名参加



「かけはし」症例発表会
当施設から5名参加



サテライト老健のぞみ
介護主任 勝木 真弓

夢のある生き方

最近、10歳になる息子と『将来の夢』について話をするところがある。

「料理を作る人」「パティシエ」「サッカー選手」、他にも家族の就いている仕事など、その時々でいろいろな答えが返ってくる。私が小学生だった頃、将来の夢は「花屋さん」「ケーキ屋さん」など、女の子なら誰しもが憧れるものだった。高校生にもなると『将来の夢』は実現可能な現実味を帯びたものになってきたように思う。

「お母さんの夢は何？」子供に聞かれた時、私は答えに困ってしまった。短大を卒業し社会人として働くようになってから、将来を考えることはあっても、『夢』について考えることはなくなってしまっていたからだ。高校で進路を決める際、私が目指したのは福祉の仕事だった。幼い頃から、車椅子生活を送る父の姿を見て、自然と社会福祉というものに興味を抱いた。現在、介護という仕事に就くことができ、目指した将来に近づけてはいる。

大人になるにつれ、様々な現実やどうにもならない限界が見えてくる。その中で、いい歳になって『夢』を語ることが少し照れくさくも感じられる。介護はその方の人生を預かり、生きることを支援する仕事だと私は思う。相手の想いや意思に添った生活を創り上げる上で、自分の心が豊かでないと、より良い支援は難しいと考えられる。子供のように純粋な『夢』を抱くことは難しいが、少し先の『将来の夢』についてこれからじっくり考えてみたいと思う。そして家族のため、自分自身のためにも、夢を持った心の豊かな人間でありたいと思う。